

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

## 【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	イネミズゾウムシ	-	並
水稲共通	ヒメトビウンカ(防除情報第2号)	-	やや多
	縞葉枯病(防除情報第2号)	-	やや多
麦類	うどんこ病	やや少	やや少
	赤かび病	-	やや多
ばれいしょ	疫病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ジャガイモガ	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや多	やや多
いちご (本圃)	うどんこ病	やや少	やや少
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	やや多	多
	ハダニ類	並	並
かんきつ	そうか病	並	並
	かいよう病	やや多	やや多
	ミカンハダニ	並	並
なし	赤星病	並	並
	黒星病	並	並
	アブラムシ類	並	並
ぶどう	黒とう病	並	並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	カンザワハダニ	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の( )内は平年値

早期水稲
------

## 1. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

前年は並の発生であった。

水稲共通
------

## 1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成20年4月9日付け、病害虫発生予察防除情報第2号による。

## 麦 類

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(二条大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆)の結果、小麦では発病茎率0.0%(1.9%)、発生圃場率6.7%(17.2%)であった。二条大麦、裸麦では発生を認めなかった(二条大麦・裸麦：発生を認めない)。

### 2. 赤かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は多い見込みである。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降、曇天・降雨が続き気温が20～27と比較的高くなると多発するので今後の気象の推移に注意し防除を徹底する。

イ 防除薬剤は予防効果主体であり、発生を認めてからの防除では効果が劣るため予防散布に努める。

ウ 薬剤散布に当たっては使用基準を遵守する。

## ばれいしょ

### 1. 疫 病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率1.0%)。

### 2. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は5.3%(7.2%)、発生圃場率は50.0%(49.6%)であった。

### 3. ジャガイモガ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率0.1%、発生圃場率は1.2%)。

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は1.7%(前年0.0%、前々年0.0%)、発生圃場率は50.0%(前年および前々年8.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

コナジラミの防除を徹底し、密度を限りなくゼロにする。また、発病株の抜き取りおよび適正処分を徹底する。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.4%(0.9%)、発生圃場率は25.0%(40.9%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は4.3%(1.8%)、発生圃場率は41.7%(25.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア トマト黄化葉巻ウイルスの伝染環を遮断するため、ウイルス保毒虫が野外に分散しないよう、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

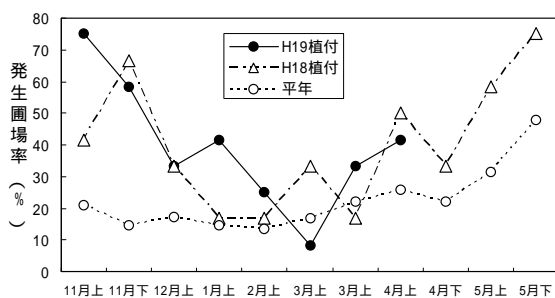


図 トマト コナジラミ類発生圃場率の推移

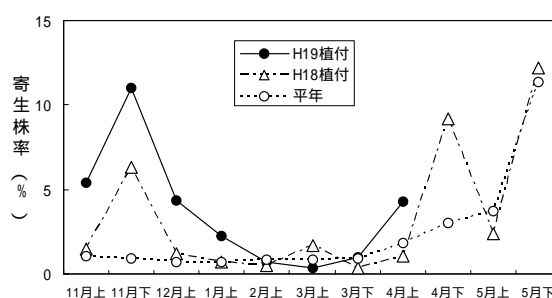


図 トマト コナジラミ類寄生株率の推移

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉では発病株率0.2%(0.4%)、発生圃場率3.7%(10.9%)、果実での発病果率0.3%(0.4%)、発生圃場率7.4%(13.8%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.2%(0.1%)、発生圃場率は11.1%(19.1%)であった。

### 3. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 多

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.3%(0.7%)、発生圃場率は18.5%(7.2%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みである。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、発生初期に防除する。

イ 葉裏にも多く寄生するので、薬剤散布は下葉かき等古葉の整理を行った後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

### 4. ハダニ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は6.4%(12.3%)、発生圃場率は40.7%(43.5%)であった。

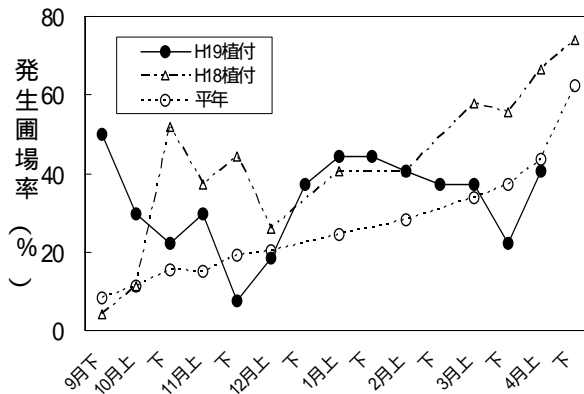


図1 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

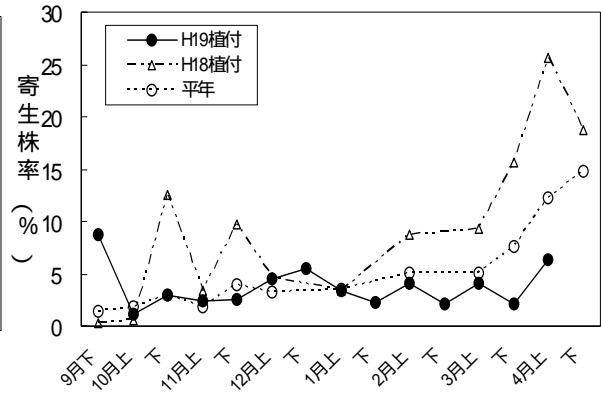


図2 いちごハダニ類 寄生株率の推移

## かんきつ

### 1. そうか病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.9%)。

### 2. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.2%(0.5%)、発生圃場率は35.9%(14.4%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 旧葉に病斑が多い園では、新梢への感染を防ぐため展葉初期に薬剤散布を行う。

イ 薬剤散布に当たっては樹勢に留意する。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.7%(1.8%)、発生圃場率は28.2%(22.6%)であった。

なし

1. 赤星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ 巡回調査圃場周辺のビャクシン上の冬孢子堆形成調査の結果、発生を認めなかった(発病枝率0.1%、発生地点率6.5%)。

2. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.2%(0.4%)、発生圃場率は16.7%(21.3%)であった。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率7.3%)。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 1~2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.04頭/m<sup>2</sup>(0.41頭/m<sup>2</sup>)と少なかった。

イ 諫早市(多良見町、小船越町)、南島原市有家町のフェロモントラップでは誘殺を確認していない。

## 茶

### 1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.3%(1.2%)、発生圃場率は18.8%(25.3%)であった。

### 2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は15.4頭(4.4頭)、発生圃場率は56.3%(54.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多い圃場では一番茶摘採後に防除を行う。

イ 感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

### 3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

昨年の第3世代の発生量は平年並であった。